

身近な人たちの「声」からはじめる地域づくり
～楽しみながらつながりを広げるために～

東京都品川区

認知症地域支援推進員 鈴木 裕太

社会福祉法人新生寿会

品川区立東五反田地域密着型多機能ホーム

東五反田倶楽部 施設長

東京都 認知症介護指導者

※写真の使用について同意を得ました

所属施設・事業所の概要

社会福祉法人 新生寿会

(きのこグループ)

1984年 日本初の認知症専門病院
きのこエスポアール病院を開設（岡山県笠岡市）
認知症のケアの実践の失敗を真摯に受け止め試行錯誤を繰り返す



東五反田倶楽部（2017年～）
品川区区立の地域密着型サービスとして受託

・小規模多機能型居宅介護（1階）

登録定員 25名

通い 15名/日

泊まり 5名/日

・グループホーム（2,3階）

定員 18名（9名×2ユニット）

品川区 地域の概要



主要産業

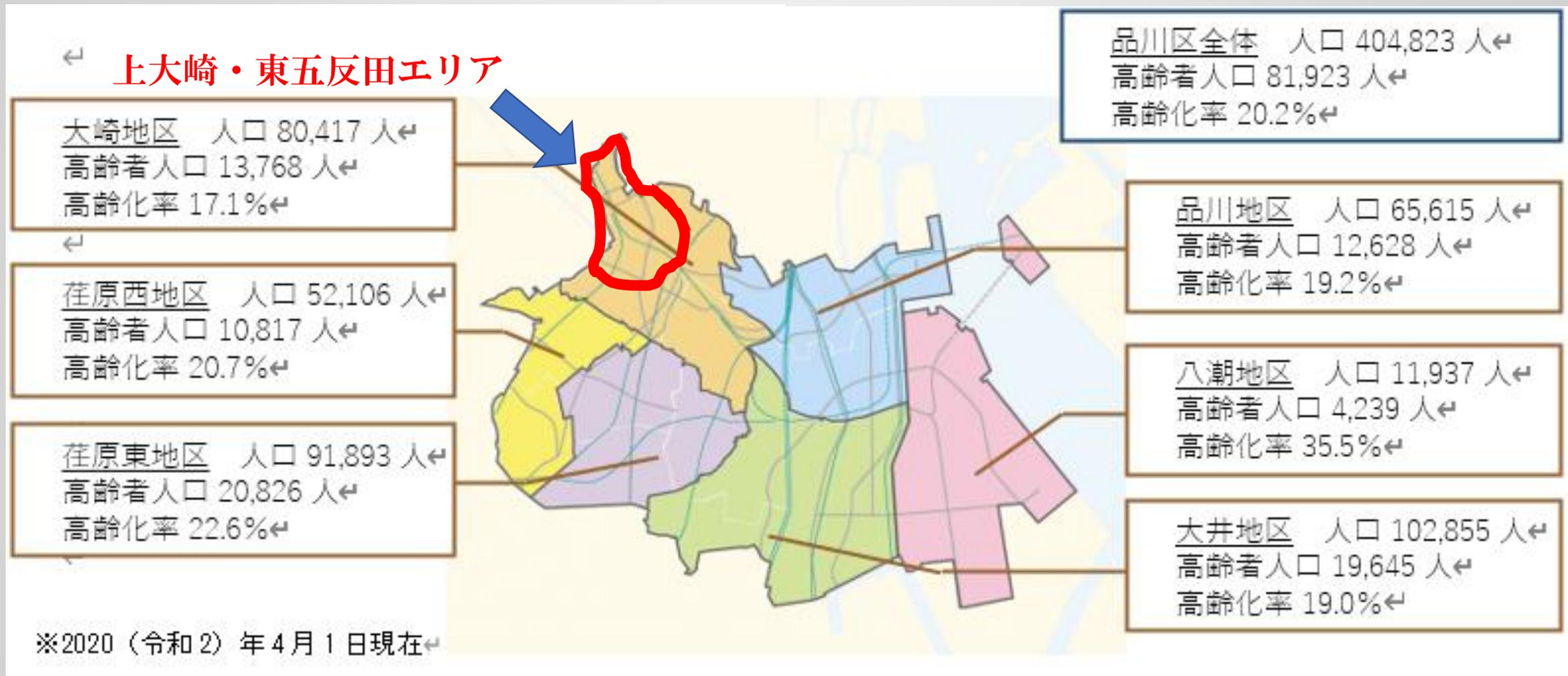
：京浜工業地帯の発祥地で、ものづくり産業が盛ん
近年は、大崎・五反田エリアを中心にIT企業の
進出が顕著

地理的特徴

：八潮地域は陸の孤島と呼ばれる。人口12000人
戸越銀座商店街をはじめ沢山の商店街が健在
地域によって貧富の差が大きい

地域の概要

品川区全体面積：22.84 km²



日常生活圏域数 20
地域包括支援センター 20
地域支援推進員 行政2名 その他2名

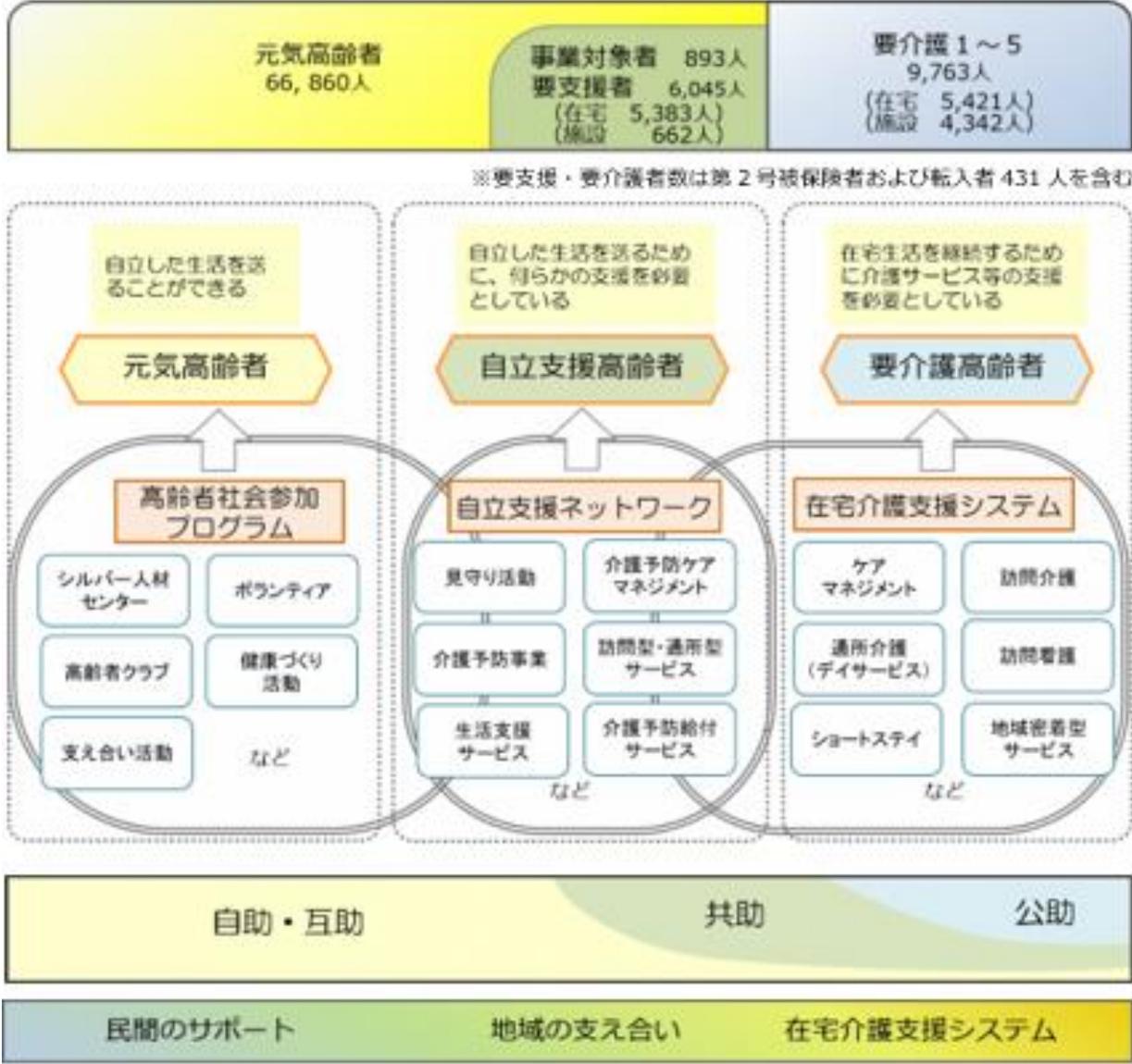
★推進員の重要性・活動に期待して介護現場から立候補
現在は区内の介護事業所職員2名在籍

品川区 認知症施策 全般



品川区
認知症施策
推進キャラクター
くるみちゃん

品川区第八期介護保険事業計画概要（案）より



(注) 自助：自分のことを自分でする、自らの健康管理、市場サービスの購入
 互助：住民組織の活動、ボランティア活動、生きがい就労
 共助：介護保険等の社会保険制度およびサービス
 公助：一般財源による高齢者福祉事業等、生活保護、人権擁護・虐待防止

8つの推進 プロジェクト概要

プロジェクト1. 地域との協働によるネットワークと共生社会の実現

地域の相談窓口である在宅介護支援センター、支え愛・ほっとステーションを中心に、地域との協働による支え合いのネットワークを強化するとともに、既存の制度では対応できない課題の解決に向けた体制の検討を進め、共生社会の実現を目指します。

プロジェクト2. 健康づくりと介護予防サービスの充実

心身状況に応じた健康づくりの充実を図ることにより、健康寿命の延伸を目指します。また、介護予防サービスの利用促進により住み慣れた自宅で自立して暮らせるよう自立支援の取り組みを支援します。

プロジェクト3. 介護保険サービス・その他のサービスの充実

認知症や障害、病気等により、要介護度が中重度になっても、本人、家族の意思を尊重しながら、可能な限り住み慣れた自宅で暮らし続けられるよう本人と家族の双方を支援します。

プロジェクト4. 認知症高齢者とともに生きる総合的な施策の推進

今後も認知症高齢者の増加が見込まれるため、認知症に対する正しい理解を普及啓発していくとともに、本人・家族の意思を大事にしながら認知症本人からの情報発信の支援も行うことにより、安心して生活できる地域づくりを目指します。

プロジェクト5. 医療と介護の連携の推進

高齢になると医療と介護の両方を必要とする人が増加するため、本人、家族の意思を尊重しながら、医療職、介護職が連携して療養環境を整え、適切なケアを提供します。

プロジェクト6. 入所・入居系施設の整備とサービスの質の向上

住み慣れた家・地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービス基盤や、在宅での生活が難しくなったときのセーフティネットとしての多様な入所・入居系施設の整備を、今後のニーズを踏まえながら検討していきます。また、施設の自主的なサービスの質の向上への取り組みを支援します。

プロジェクト7. 多様な福祉人材の確保・育成と業務の効率化

介護サービス等を安定的に供給するため、多様な福祉人材の確保・育成の方策を検討・実施するとともに、施設・事業所における業務の効率化への取り組みを支援します。

プロジェクト8. 感染症や災害時対応の体制整備

予測できない感染症や災害等の発生時に適切に対応するため、発生時における具体的な対応策の検討を進めるほか、感染症対策への備えや災害備蓄品の確保などを進めていきます。

プロジェクト4 認知症高齢者とともに生きる総合的な施策の推進

(1) 認知症の理解の推進・本人からの発信支援

認知症は誰でもかかる可能性のある脳の病気から起きる認知機能が低下した状態であり、高齢化の進展に伴い今後も増加が見込まれています。認知症の人やその家族が地域の中で自分らしく暮らし続けられるよう、認知症に関する正しい知識の普及を進め、偏見の解消に取り組むとともに、認知症本人からの情報発信の支援も行い、地域ぐるみで認知症のある人を支えていきます。



認知症の理解の普及に向けた展示

- 『品川“くるみ”認知症ガイド』やアイテムを活用した普及啓発
- 認知症サポーター養成の推進
- 本人ミーティングの開催

(2) 認知症予防、早期発見・早期対応の推進

認知症予防に資する事業を実施し、また、認知症を早期に発見できるよう認知症検診を実施することで相談や診断につなげるとともに、認知症初期集中支援事業の実施など早期の適切な対応により、本人や家族が安心して地域で生活できるように施策を推進してまいります。

- 認知症予防事業の実施
- 認知症初期集中支援事業の実施
- 認知症検診の実施

(3) 認知症高齢者と家族の社会参加・仲間づくりの支援、異業種連携の充実

認知症高齢者と介護家族の社会参加や交流は、本人や家族の心身の負担軽減に有効と考えられます。そのため、身近な場所で気軽に利用できるように、認知症カフェの設置・運営を支援するほか、認知症になっても利用しやすい生活環境の整備を目的に、異業種・多職種との連携の充実を図ります。



認知症カフェ

品川区 認知症地域支援推進員として

- * 地域密着型事業所をベースにした日常的な本人支援や地域とのつながりを活かして、区の推進員として活動を企画・展開しています。
- * 特に本人の社会参加支援に力を入れています。

- ・ 品川区本人ミーティングの立ち上げ
- ・ 品川区認知症講演会の開催
- ・ 地域ケア会議への参加
- ・ みんなの談義所しながわへの参加
- ・ ファーム・エイド東五反田の立ち上げ などなど



「地域とのかかわり」
介護事業所の日常をベースに
* 身近な人の声から、一緒に動き出した

あいおい夏祭り H29年8月 (町会役員の声から)

40年位前は町会も活気もあり
縁日や祭りで盛り上がっていたが、
役員の高齢化もあり難しい



地域食堂 H30年1月~(隣のマンションの住人の声から)



きのこカフェ

H30年7月～
(地域の声からはじめた)



餅つき

H30年1月～
(利用者の声から)



野菜の販売

(利用者の声から)



駄菓子屋きのこ

H30年7月下旬～ (地域の子供の声から)



書道教室

R1年6月～

(自分の経験を活かしたいという本人の声から)



グループホーム 入居者Aさん

- ・ 姉、弟の3兄弟の真ん中
- ・ 3兄弟共に書道に関わってきた
(40年以上書道教室の先生だった)
- ・ 1人での生活が厳しくなり入居
- ・ 入居後他利用者の声や咳が気になり毎日イライラ
- ・ 施設を飛び出し自宅へ向かうことも
- ・ 個室で過ごす時間が増える (弟への電話頻繁)
- ・ 自分が出来なくなっていく事への不安も増える
「頭がどんどんおかしくなっていく」
- ・ スタッフも大変・困った・どう対応しようと悩む
- ・ 書道の先生をしていた頃の話を楽しそうに話す
- ・ 知り合いにたのまれて書を書くことがよくあった
ご褒美にイカ刺しとビールが楽しみだった
- ・ いろいろあって仕方なく教室をしめた
- ・ 子供を相手に教室を行っていた

書道教室

- ・ 難しい人、困ったスタッフ人、と考えていたスタッフが、書道教室を生き生きと活動されている様子を見て、日頃の関わりに変化が出た

駄菓子屋

- ・ デイサービスに通おうとしなかった利用者も自分の役割(本人がしたいこと)を見つけたことにより通えるようになった

☆書道教室や駄菓子屋を通じ、子供からその親までが日常的に認知症の方々と接する機会ができた。

☆この自然な形で認知症の方との関わりを持つことができているので、認知症についての偏見や偏った理解になっていない。
認知症の正しい理解、共に生きていくことへの啓発が自然とできている。

「地域とのかかわり」 新たな広がりへ

ファーム・エイド東五反田の取り組み

- * 企画段階から実施、振り返りまで
本人が地域に溶け込み
一緒に地域づくりを進める

事業所として様々な活動を通じ、地域とのつながりづくりはできてきた。しかしながら、行政、病院、地域の様々な専門職も一緒になって地域のつながりづくりを広げるにはまだまだ多くの課題もあった。

「認知症」に特化せず、地域に存在する様々な職種の人たちが職域を超え地域でともに楽しみながらつながりづくりができたらいいなと考えていた。

そんなときに銀座でみつばちプロジェクトを展開している団体が、この地域で一緒にファーム・エイドを開催しないかと提案をしてくれた。すごく楽しそう！！と思い五反田でも開催することになった

ファーム・エイドとは、2008年に銀座で誕生。【ファーム農山漁村など】を都市部などから【エイド：応援・協力】しようとマルシェ(商品販売)・フォーラム(意見交換)・メッセ(体験交流)の3本の柱を軸に展開している。

各分野の名人・達人や埋もれ行く地域資源などに光を当て、都市と地方が互いに支えあう新たな関係性の構築を目指している。

ファーム・エイド東五反田とは

*企画を練って提案

行政・町会・認知症の本人・医療・看護・介護・障がい・児童・地域の商店・住民など様々な人が連携することを目的とし、マルシェ（物販）・フォーラム（認知症講演会）・メッセ（体験コーナー）の3つ柱を通じ東五反田の新たな価値・連携を創出する



このイベントを通じて地域共生社会の実現に向け様々な人が連携し、地域づくりをしていくことはできないだろうか・・・



病院との連携

- ・ファーム・エイドへの参加に伴い、病院関係者の参加が少しずつ増えてきている

行政との連携

- ・認知症講演会を共催という形で開催
- ・講演会は認知症の本人が話をすることで共通の思いが一致

地域の専門職のつながり

- ・地区ケア会議の参加メンバーへの呼びかけ
- ・楽しみながら五反田の名物の開発・販売
- ・地域の看護学校との連携



認知症の本人たちとのつながり

みんなの談義所しながわ

「みんなの談義所しながわ」とは、地域に暮らす人達でゆる〜く集まり、言葉と想いを交わす場です。話す内容はその場の雰囲気、特に決めず自由に。話したいことがあれば話してもらえばいいし、その場にいるだけでも全然OKです。 (フェイスブックより)

参加メンバー

認知症の本人、家族、認知症介護指導者、ケアマネ、介護職、医者、出版社、記者、看護職、カレー屋さん、薬局関係などなど

- * 少人数でゆる〜く始めていたら口コミで広がり、つながりが広がっている。
- * 本人に医師が声をかけてくれ、つながりが広がることも！
- * 他区の本人・家族・専門職の参加も





本人がみんなにエール！



第1回

**キャッチフレーズも
みんなで話し合っ
て決めました！**

わっと！つながるみんなの
みらい
ファーム・エイド東五反田

令和元年10月27日(日) 開催



認知症講演会 認知症とともに生きる

主催：ファーム・エイド東五反田実行委員 共催：品川区





わっと！つながるみんなのみらい ファーム・エイド東五反田開催しての成果・課題

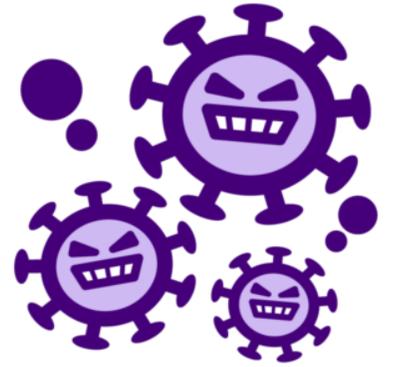
成果

- 様々な職種や地域の方々がそれぞれの役職や垣根を越えて同じ方向をむいて一緒に楽しむことができた。
- 取り組みを通じて話し合いをする機会が増えて日々の相談がお互いにしやすくなった。
- 始めて参加した病院関係者から、「こんなに楽しいイベントなら来年は後輩を多く連れて参加したい。実は今回参加するまでは本当に人が来るのか、意味があるのだろうか」と失礼だが疑っていた。」と感想があった。(PT)
- 品川区としてエリアを絞って認知症講演会を開催するのは初めてだったが、地域の人々の参加割合も多くとても良かった。(区職員)

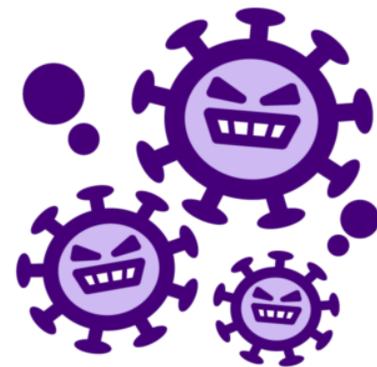
課題

- 更に行政と連携を強化していきたい
- 地域外の人たちへの周知・連携の強化
- 病院内の他職種との更なる連携へ

令和2年 新型コロナウイルス発生



駄菓子屋・地域食堂・カフェ・
書道教室・夏祭りなど様々な活
動が自粛、中止に



そんな中でも・・・！

みんなの談義所しながら

- ・月に1度の対面での開催ができなくなる
- ・7月頃～ZOOMを使って月に1回の話し合い
- ・分科会的に小さな活動を行う
(運動部・ファーム・エイド出店部など)

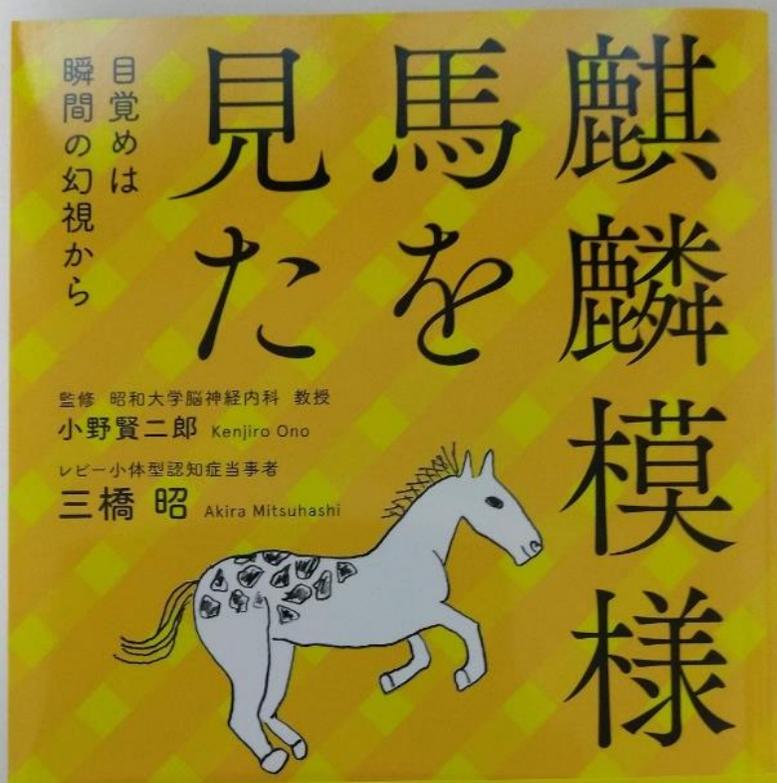


運動部会



ファーム・エイド 出店部会





医師の声掛けで談義所につながった三橋さんが、体験を本に！
幻視をリアルに描いた一冊

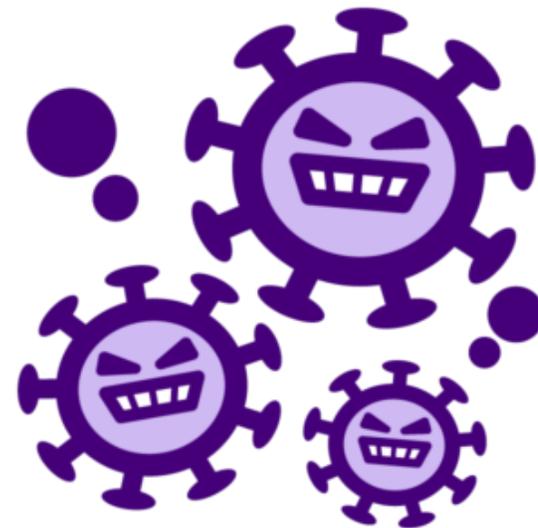
出版部

喫茶いぼしょ部

(三橋さんの動画は休憩時間に映写)

第2回

わっと！つながるみんなの未来
ファーム・エイド東五反田開催に向けて



令和2年5月 実行委員会の開催

様々なイベントが中止になっており開催をするか否かを話し合う

- * イベントを開催することが目的ではない。
- * イベントの準備を進めながらつながりづくりをするのが目的！！
- * 直前で中止にすることも視野に入れながら準備を進め、関係づくりを進めていく
- * コロナ禍でどのように開催していくのか前向きに話し合いを進める
(毎月1回の定例会の開催)

コロナ禍における工夫

- ①実行委員会の開催は医療保健大学の教室（120名定員）を借りて開催することで前年度よりも多くの参加者がソーシャルディスタンスを保ちながら参加し話し合いを行った。毎回20名前後の実行委員と医療保健大学の2年生がZOOMにて20名参加。行政の担当者も3名毎回参加。
- ②認知症講演会は、大学の教室（120名定員）で入場40名。YouTubeでのオンライン配信とケーブルテレビでの後日配信をした
- ③薬の分包体験は予約制とした
- ④マルシェの会場での飲食スペースの廃止
- ⑤運営スタッフ全員の検温、各店舗へのアルコールの配置
- ⑥QRコードを使い通販やホームページの閲覧ができるようにした



NHK厚生文化事業団

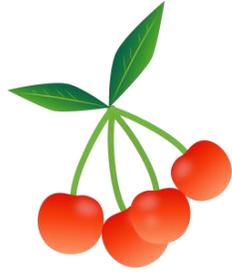
第4回 認知症とともに生きるまち大賞 **本賞受賞**

楽しみながらつながる
地域共生社会を目指して

ファーム・エイド

東五反田

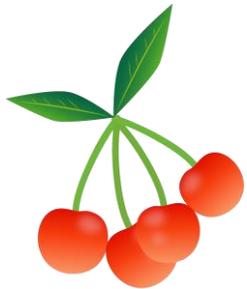
(東京・品川区)



コロナ過で動き始めた地域連携
千代田区認知症本人ミーティング

実桜の会

(令和2年2月~)



千代田区認知症本人ミーティング 実桜の会 (令和2年7月~)





**品川区では月に1回
本人も参加した
ミーティングを
行っています**





品川区本人ミーティングの立ち上げへ
(令和3年3月～予定)



認知症カフェ

(常設型)

+

ピアサポート

+

働く場



ファーム・エイド東五反田

医療保健大学

認知症本人

ボランティア
団体

みんなの談義所
しながわ

地域センター

相生会町会

訪問介護

訪問看護

福祉作業所

小学校

品川区

包括

地域住民

居宅介護

喫茶いばしょ

高齢者施設

福祉用具

NTT東日本
関東病院

薬局

企業

医者

商店

訪問マッサージ

これからの展望

- 認知症になってもその人がその人らしく最期まで住み慣れた地域で暮らし続けることができるために地域づくりを進めたい
- 認知症本人の声を施策に反映していきたい
- 立場や職種を超え様々な人たちでもっと連携をしていきたい
- 本人と日々関わり、本人の声と力に気づける介護職のツヨミを活かしながら、本人と地域が自然と溶け込みあえるような地域をつくる推進員活動を、楽しく続けていきたい。

本日は最後までありがとうございました

